

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年3月20日

事業所名 しばんはうすさくら 真岡田町教室

保護者等数(児童数) 2 回収数 2 割合 96%

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	2					
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	2					
適切な支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	2					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	2					
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	2					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	2					
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			1	1		
保護者への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	2					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	2					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか			1	1		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	2					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1	1				
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			2			
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	2					
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2					
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	2						
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	1			1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				2		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	2					
	23	事業所の支援に満足しているか	2				事業所利用中、常に連絡がつくようにして頂きたい。	事業所所有の携帯電話導入を検討したい。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 真岡田町教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		部屋が2つに分かれているため、その日の利用児の状況により、使い分けている。	今後も2つの部屋を状況により活用していく。
	2 職員の配置数は適切であるか	7		利用児童の人数だけでなく、その日の活動内容に合わせて職員の人数を配置している。	安心安全にお預かりが出来るように、今後も継続していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	5	常に設備等の安全確認は行っている。段差はあるが、利用児童が安全に過ごせるようにその都度声掛けをしている。	段差は構造化し取り除くことは難しいため、その都度声掛け等をして支援する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			今後も心地よく過ごせる環境、活動に合わせた空間を提供していく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3	月1回の会議の際に職員で話し合いをする場を設けている。	会議だけではなく、定期的に話し合いの場を設けるようにしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	アンケート結果を職員で共有し、今後の支援につなげるようにしている。	今後もいい支援が提供できるように、改善点を職員で話し合い支援に繋げる。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	4	ホームページに掲載している。	今後もホームページに掲載していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		今後必要があれば、外部評価を取り入れていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		定期的に研修には参加しており、研修後に会議等で報告をしている。また、参加したい研修があった際には参加出来るようにしている。	今後も研修に参加した際には報告をし、今後の支援に繋げていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		利用児童の現状と保護者様のご希望をお聞きし、計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を因るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		今後も使用していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		今後も継続していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		職員と話し合いをしながら適切な支援が出来るようにしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		今後も継続していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			今後も継続していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	7			今後も継続していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		一日の流れを打ち合わせで決めており、午後から出勤した職員がわかるように連絡ファイルを使用している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	6		支援終了後に振り返りをするのが難しい。(シフトの勤務時間上)そのため、連絡ファイルを活用し、次に日には振り返りが出来るようにしている。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		記録はしているが、検証・改善までは出来ていない所もあるため、出来るようにしていく。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		児童発達支援管理責任者のみの判断ではなく、職員からの話も聞きながら判断している。		
関係機関や保護	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			今後も継続していく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3		今後必要に応じて連携を図り、支援していく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4	相談支援専門員と情報を共有し、その都度対応していただいている。	

護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	相談支援専門員と情報を共有し、その都度対応していただいている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			今後も必要に応じて助言や研修を受ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6		今後ご希望があった際には検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6		必要に応じて参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時に細かくその日の状況を伝えたり、必要に応じて管理者から保護者にご連絡している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3		今後必要に応じて支援を行っていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約の際に細かくご説明させていただいている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			今後も継続していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		ご相談があった際には、その都度対応させていただいている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		今後必要に応じて支援を行っていく。
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		ご相談があった際には、その都度対応させていただいている。又、就学時の切り替え時に放デイの利用に関して等、細かくお話を聞く場を設けるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	4	Instagramを活用し、発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			今後も継続していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			今後も継続していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		今後必要に応じて図っていく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	年2回避難訓練は実施しており、マニュアル等は保護者の必要に応じてお伝えしている。	
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	避難訓練を年2回行っている。		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時にご確認後、定期通院後や個別支援計画の見直しの際に確認するようにしている。		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2		現在は医師の指示書が必要な利用児がいないため、行っていない。今後必要に応じて対応していく。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	会議等で今後の対応等話し合いをしている。		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			今後も継続していく。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			今後も継続していく。	